UCHIYAMA GROUP［社内報］

ウチヤマタイムズ

9 No.235 2021

UCHIYAMA HOLDINGS ウチヤマホールディングスグループ
東証一部上場（証券コード:6059）

（株）ウチヤマホールディングス 〒802-0044 福岡県北九州市小倉北区熊本2丁目10-10 電話:093-551-0002
発行日:令和3年8月20日 編集:嶋井太郎・岡田直紀・原田裕子 監修:内山文治・吉岡信之

入居者様が語り継ぐ 戦争体験

さわやかひだか館

八月十五日、今年で七六回目の終戦記念日を迎えました。さわやか倶楽部の介護施設には、戦争を経験された方々が多く入居されています。埼玉県日高市にある「さわやかひだか館」では、終戦当時の様子や体験したことなど、貴重なお話を入居者様に語っていただきました。

山田 喜美子さま

戦争当時は長崎に居ました。原爆投下から二年後に爆心地に行きましたが、何も無くなっていました。その時、とても深い悲しみを覚えました。草木は生えないと言われていましたが、今は花も咲いてとても嬉しいです。平和公園の近くに家を買って住み、自分の散歩コースにもなっていました。やはり平和が一番ですね。

平山 洋子さま

原爆が投下された日に、両親は長崎市にいました。空襲があった為、私は長崎市外の祖父母の家に疎開していましたが、家族のことがとても心配でした。しかし翌日、父が特別夜行列車で会いに来てくれて、とてもとても嬉しかったです。家は焼けてしまいましたが、母も姉も生きていて本当に良かったと思いました。

石塚 タツさま

鹿児島に居て女学生でした。敵が攻めてくると、毎日毎日タコツボ（一人用の塹壕）掘りをやっていました。ある日、竹やぶから海岸を見ると何十もの軍艦が来ていました。終戦はラジオで知りました。その時は本当に日本が負けたのかなと思いました。でも今考えると、あの数の軍艦を見たらアメリカに勝てる訳ない、戦争が終わって良かったです。

加藤 愛子さま

埼玉県の川越に居ました。奉仕で上福岡の陸軍兵器工場に居ましたが、毎日毎日空襲がありました。ある日、工場の火薬庫で大爆発があり、その事故で右耳に怪我をして、体中に火傷を負いました。終戦の知らせは病院のベッドで聞きました。体が動かず、何も考えられませんでした。結局、十五人怪我をして十人が亡くなりました。私は生き残った一人です。

田口 セツさま

青森県に居て、戦争当時は女学生でしたが、よく働かされました。学校で毎日兵隊さんの衣類、特にふんどしを一日十枚縫っていました。終戦の日はラジオの前で待っていたら、戦争が終わったと放送がありました。明治生まれの父が「大日本帝国が負けた」と泣いていて、その姿を見てとてもショックでした。でも私は戦争が終わってホッとしました。その後は食べる物がなく大変でしたが、今は食べる物があるから幸せです。

楠島 絹子さま

東京の亀戸に居て東京大空襲に遭いました。小学二年生でした。叔父さんに「防空壕には入るな」と言われ、空襲の時は側溝に母と隠れていました。翌日、その防空壕で沢山の人が死んでいました。家は無くなってしまいましたが、父も弟も無事で、とても嬉しかったです。終戦の時は畑にいて、周りの人に知らされました。兄は竹やりの訓練をしていましたが、それで飛行機を落とすなんて出来る訳ありませんよね。戦争なんてしない方が良いです。

坂上 トミさま

北海道で昭和十九年から女子挺身隊に居ました。函館にある海軍の缶詰工場で働いていましたが、ある日、石炭トラックから転落して右膝が不自由になってしまいました。終戦は叔父さんが日本は無条件降伏したと知らせに来てくれました。悔しかった。戦争はみじめだ。負けたら尚更みじめだ。だから平和が一番です。

根岸 祐次郎さま

海軍の横須賀海兵団に居ました。特殊潜航艇の機関要員で、特攻要員でした。しかし、戦局が悪かった為、潜航艇もなく出撃できませんでした。終戦は部隊のラジオで聞き、ただびっくりしました。戦争が終わって良かったとは思わず、後の事は何も考えられませんでした。一か月ほど部隊で残務整理をして復員しました。この話をするのは今回が初めてです。

丸山 康雄さま

長野県で陸軍師団司令部の航空隊に居ました。特攻要員でした。終戦の二週間前になると、全員特攻すると言われて「やるべき時が来た」と思いました。終戦は栃木県の壬生飛行場でラジオを聞いて知りました。日本が負けた、と同時に軍のだらしなさを心の中で批判しました。いつでも死ねる気持ちでいたのに。今は、戦争はなければいいと思います。平和に暮らしたいです。

Nさま

東京の江東区に居ました。女学生で勤労奉仕団で軍需工場で働いていました。毎日空襲がありました。東京大空襲の時は、防空壕は人が一杯で入れず、小学校の貯水槽に浸かって隠れていました。しかし、父とはぐれてしまい、母は小学校の貯水槽で亡くなりました。冷たくなって浮いていて、とてもみじめでした。父の遺体は見つかりませんでした。でも、そんな時に親戚や物がある人は薄情で、びしょ濡れでも毛布一枚くれませんでした。疎開しても空襲がありました。その地域の人は防空壕にも入れてくれず「疎開人、疎開人」とバカにされました。防空壕の壁にへばりついて空襲を免れました。その時に「これからは絶対に負けない」と思いました。終戦は周りのみんなが「戦争が終わった」と言っていたのでわかりました。日立工場に居た時に艦砲射撃に遭い、砲弾が近くに飛んで来ました。しかし不発弾だった為、命が助かりました。アメリカの射撃は正確だなと思いました。あんな国に勝てるわけないよね。戦争は色々なものを奪い、みじめになります。本当に戦争が終わって良かったです。

《さわやかひだか館・担当職員より》

辛いお話をしていただきましたが、最後には笑顔で皆さん「戦争が終わって良かった」「平和が一番」と同じようなことを言われていました。この方々のような戦争の体験談を私たちは後世に伝えていかなければならない義務があると思います。なぜならば、幾万の犠牲を払って先人達がつかみ取った平和なのですから。この先も平和を祈りつつ生活していきたいですね。今回は、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。（齋藤 浩人）

会長賞

2021年 8月度表彰

今月も（株）さわやか倶楽部が運営する介護施設にご家族様から感謝のおたよりをいただきました。

さわやかさがみはら館（神奈川県相模原市）　入居者様の娘様より

母が大変お世話になりました。コロナウイルスの流行が始まる少し前に入所させていただき、本当によくしていただいて母は幸せでした。いつ伺っても皆様は優しく接してくださいました。私は面会もままならず、母が徐々に厳しい状態になっていることを実感できず、お知らせを伺ってもまだ大丈夫かと思い違いしていましたが、多忙中にアレクサの調整などお願いするといつも快く手伝ってくださり、おかげさまで毎日モニター越しに母と面会することができました。嚥下機能の衰えや身体の痛みがあった母は、最後まで頑張って力尽きましたが、スタッフの皆様の優しいお声かけにどれだけ励まされたことか、ありがたく、日々思い出しては感謝しております。（後略）

《施設からのコメント》

二〇一九年十二月に入居された柏木様は要介護5。生活の中では様々な介護が必要でした。しかし職員の声掛けにはたくさんのお話をしてくださる方でした。ご近所にお住まいの娘様は度々訪問され、居室内で会話をされたりお好きなコーヒーを楽しまれていました。コロナ禍で面会が中止になり、居室内に"アレクサ"を設置。私たち職員はお二人の会話のお手伝いをさせていただきました。感謝の言葉を頂き、本当に嬉しく思います。これからも入居者様とご家族様の為、今できる事をできる形で協力して行ってまいります。（宮澤 和美）

さわやか野方館（福岡県福岡市）　入居者様の息子様より

平成二十五年三月一日に入居しまして、令和三年五月二十一日まで、施設長はじめ全スタッフの皆様に本当に良くしていただきまして、母は最後まで笑顔で過ごさせていただいて幸せな人生でした。こちらの老人ホームに入居させていただきまして本当に良かったと心から思っております。ありがとうございました。一言では申し上げられませんが、こちらのホームは世界一の老人ホームだと思っております。大変お世話になりました。スタッフ全ての皆様ありがとうございました。感謝、感謝の一言です。

《施設からのコメント》

中川様はさわやか野方館で約九年間生活して頂き、いつも笑顔で沢山の思い出を残してくださいました。行事にも積極的に参加し、特別講演会や本社の誕生日会にも参加され、とても喜ばれていたことが印象に残っています。コロナが流行するまでは毎週のように息子様が面会に来られ、昼食を食べ終わるまでいつも見守りしながら時間を共に過ごされたり、沢山の施設の行事にも親子で参加をしていただいていました。優しい笑顔で「すみません、ありがとうございます」と声を掛けてくださる中川様にはいつも元気をいただき、感謝することの大切さを常に教えていただきました。中川様に出会い、共に過ごせたことに感謝です。（中馬 寛志）

さわやかいずみ館（福岡県朝倉市）　入居者様の娘様より

六月より母が入所させていただいております。入所当時は何度も事務所に行っては「家族に迎えに来るよう電話してください」と言っていたようですが、職員の方々の細やかな対応のおかげで母も落ち着き「事務所に来る回数も減り、最近は話せる方もできておだやかに過ごされてますよ」と職員の方から話を聞いて本当に安心いたしました。職員皆さまの親身な対応に心から感謝いたします。ブログ更新も毎日大変でしょうが、楽しみに拝見しております。

《施設からのコメント》

原口様は、今年の六月にさわやかこすもす館より転居されました。入居当初は、家に帰りたいと食事も喉を通らないほどでした。たくさんの時間を共有し、職員としてではなく一人の人として寄り添い、心を紡いでいきました。これまで愛を持って接してこられたご家族様から色々なお話を伺えたことも、原口様が心を開いてくださる道しるべになったと感謝しています。「ずっとここにいるよ」と穏やかにお話しされる今、ふるさとの筑後船小屋で満開の桜を大切なご家族様と見上げる日を楽しみに、これからも笑顔で過ごされますようお手伝いさせていただきます。（和佐野 蓉子）

※写真およびお手紙は、お客様ご本人およびご家族様の許可を得て掲載しています。

ライフマップで生きがい発見

story 22 思い出のカレー作り

さわやかいずみ館［福岡県朝倉市］

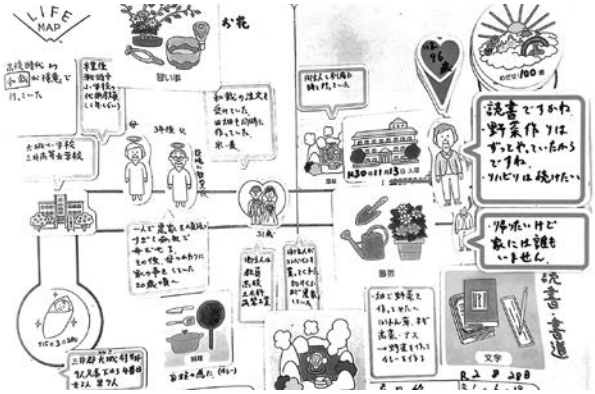
花田終（おわり）様は、1926（大正15）年3月20日生まれの95歳。いずみ館に入居される10年ほど前にご主人様に他界されてから一人暮らしとなり、娘様が週3～4回様子を見に行かれていたようです。2018年9月に病気で入院となり、転院先の病院でリハビリを頑張られましたが、自宅へ帰ることへの不安があり、その年の11月にさわやかいずみ館へ入居されました。

三井郡大城村に9人兄弟の次女としてお生まれになった花田様は、三井高等女学校を卒業されました。戦時中ということもあり、小学校の代用教員として教壇に立ちながら、実家の農業の手伝いもされていたそうです。教員として1年が経った頃、実家で農業をしていたお母様が急逝され、20歳の終様を母代わりとした一家の生活が始まります。和裁が得意だった花田様は、田畑を作る傍ら和裁の注文を受け、必死に家族の生活を支えてこられました。お父様も、お母様の後を追うように3年後に他界され、名実ともに一家を支えて来られました。

その当時、花田様が家族によく作った料理が「野菜カレー」だったそうです。当時はあまり物がなく、畑でとれた野菜でカレーを作っていたそうですが、それでも皆が「美味しい、美味しい」と、食べてくれたことが嬉しかったと思い出を語ってくださいました。

その後31歳の時に、教員だったご主人様と結婚され、女の子1人、男の子1人を授かります。子育てをしながら農業も続けられていた花田様にご主人様がコンバインを買ってくれたことを、嬉しそうにお話してくださいました。お1人で家の田畑や料理を作っておられた花田様にとって、コンバインはまさに救いの神だったそうです。また、その当時では珍しく車の免許を持っておられ、とても活動的な方だったようです。畑仕事は80歳頃までされていたとのことでした。

ライフマップの聞き取りの中でやってみたいことをお聞きすると「野菜作り」の希望が1番に上がってきました。自分の作った野菜を近所の方たちにも配られていて、家族や近所の方の喜ぶ顔がやりがいにつながっていたそうです。そこで、昔ご家族様のために作っていたカレーを花田様が育てた野菜で作ってみてはどうか、さらにご家族様とそのカレーを食べたらもっと美味しいのでは、という話になり、花田様との野菜作りが始まりました。



花田様には野菜作りの先生になっていただき、野菜作り未経験の職員に指導していただきました。2019年の冬にジャガイモと玉ねぎの作付けを行い、7月初旬の収穫を満面の笑みで喜び合いました。しかし残念ながら、7月21日に花田様が入院された為、この年のカレー作りは断念。幸いお元気になられていずみ館に帰って来られたので、2020年もジャガイモと玉ねぎは作付けしたのですが、今度はコロナ禍の影響でご家族様の面会が難しくなり、花田様自身の体調も良い状態とは言えなかったため、短い時間でできる包丁さばきの練習にその年の野菜は使わせていただきました。今年もコロナ禍の中、娘様との食事は難しいですが、すでにジャガイモと玉ねぎを収穫しています。今年こそは、カレーを作ろうと意気込んでいるところです。

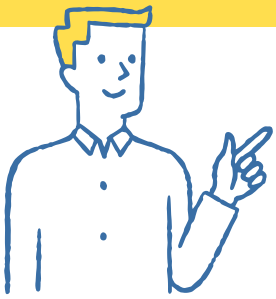
野菜作り以外にしてみたいことを伺うと、以前は書道や読書も楽しまれていたとのことでした。字がとてもお上手で、先日も七夕の短冊に綺麗な字を披露していただきました。読書は「何でも読みますけど、時代物よりも現代物の方が読みますかね」と話されていたので、なるべくそれに沿ったものをと、毎月図書館から借りてきて読んでいただいています。新聞も時間をかけて毎日熱心に読んでおられます。1日1日をとても丁寧に過ごしておられるのが伺えます。

コロナ禍で、制限もたくさんありますが、これからも花田様に寄り添い、花田様らしい毎日を過ごせるよう職員全員でお手伝いさせていただきます。ライフマップで他の入居者様にもお話を伺い、寄り添い、一緒に考え、それぞれの幸せの形を一つでも実現できるように努めていきます。（山本 純司）

※写真・文章は、入居者様ご本人およびご家族様の許可を得て掲載しています。

ブログ担当者
必見!!

ご家族様に とても喜んでいただける ブログにするコツは？



面会制限の中、施設ブログでご家族様が安心されます

さわやか倶楽部では、施設の職員がたくさんブログを書いていることで、入居者様のご家族様にとても喜ばれています。ブログ全体で毎日7100余り(8月上旬)のアクセス数がありますが、中には『たくさん見られている施設』と『もっと見ていただきたい施設』があるのも事実です。では、たくさん見られている施設のブログは、どういう工夫をしているのでしょうか?ブログの人気を集めている施設の中から、今回は「さわやかながれやま館」の例をご紹介します。

8月1日の「うなぎを食べて夏バテ知らず(^^♪」の記事に出てくる写真がなんと40枚！

入居者様の写真が大きく、笑顔がすばらしい写真ばかり

ご家族様からのコメントが賑わっている

うなぎを食べて夏バテ知らず(^^♪
(さわやかながれやま館のブログ)より

ご家族様からは以下のようなコメントをいただいています！

いつもの決まった食事に加えて、季節、イベントに合わせて特別な食事があるのは、羨ましいです。妻には精神的にも有り難いことです。係の皆さんのお陰でさいきんは特に明るく落ち着いてきた感じがします。有難う御座います。

大好物の鰻がお昼御飯で良かったね。曾孫も美味しそうとおおばあちゃんの写真を見てました。

ブログアップ有り難うございます。夏と言えば「鰻!」スタミナばっちりついたかな?とても美味しそうに食べてますね。夏バテ知らずで暑い夏を乗り越えましょう。美味しく頂ける事って本当にありがたく幸せなんだなって皆さんの笑顔に改めて気付かされます。

ご家族様のコメントで職員も元気をいただけますね。そこで、是此田施設長に、喜ばれるブログのコツをお伺いしました。

ブログには出来るだけ多くの写真を使っています。

全体像の写真より個人のアップの写真を多く使っています。

ご家族様が洋服を持って来られた場合は、入居者様がその服を着ている写真をブログに載せ、果物を差し入れていただいた場合は、召し上がっている写真を掲載し、ブログに載っているので見てください、と相談員がご家族様に連絡を入れています。

ご家族様が来館された時には、いつのどのようなブログに登場していますよ、と伝えるようにしています。

ブログの写真を廊下にも掲示していますので、入居見学や契約の際にご覧になっていただき、ブログにも紹介する旨を伝えています。

なるほど！ですね～。ご家族様とのお付き合いは、見学のときから始まります。新型コロナ対策で面会制限が続く中、いかにご家族様と入居者様とのつながりを持っていただくかを工夫されています。全国の職員の皆さん、ぜひこれからのブログ作成の参考にしてください！

施設の様子を広く一般の方にも知っていただくため、さわやか倶楽部のフェイスブックには、各施設のブログの中からインパクトのある記事をリンクして紹介しています。「この日のブログは、もっと多くの人に広めたい！」という記事があれば、原田宛てにご連絡ください。お待ちしています！(運営指導部・原田裕子)

連絡先 y_harada@sawayakaclub.jp

さわやか倶楽部
公式フェイスブックは
こちらから⇒
https://www.facebook.com/sawayakaclubonline

さわやかだより

日々更新される
施設のブログから
一部をご紹介！

さわやかなすしおばら館／栃木県那須塩原市

お盆はおはぎ

毎日雨が降り続き肌寒い日が続いていますが皆様ゆっくり過ごされています。お盆さんには…おはぎでしょ。との声がありおはぎ作りをしました。

ご飯を丸めて丸めて、あんこで包んで包んであっという間に沢山のおはぎが出来上がりました。とっても美味しく、皆様素敵なお盆を過ごされています。
（諏訪 京子）

さわやかレークサイド中の原（なかはる）／福岡県北九州市

かき氷

8月9～10日の2日間のおやつはかき氷を作って食べました。
「けっこう力がいるね」「よいっしょ」頑張ってくださ～い。途中職員が一緒にしましたが皆様自分の分は頑張って作られました。

シロップを選んで食べましょう。「やっぱりイチゴよ」「わたしはメロンですよっ」たくさんかけましたがどの味も大人気でした。皆様に満足して頂けて良かったです。また皆で美味しいものを食べましょう。（上野 真理）

さわやかさかのいち館／大分県大分市

夏祭り

8月5日に夏祭りを行いました。開会宣言は内田施設長にしていただきました。
「今日も暑い日ですが、盛り上がっていきましょう!」気合十分の開会宣言ありがとうございます。

スイカ割りをご入居者様2名に行って頂きました。同時進行で昼食でお出しするたこ焼きを作っています。昼食メニューは、とり飯、チラシ寿司,から揚げ、たこ焼き、焼き鳥の5種類に加えて、スイカにカキ氷とよりどりみどりです。

食事のあとは、職員による出し物で夏祭りをさらに盛り上げていきます。素敵な景品が当たるビンゴ大会へと続き、盆踊りで締めます。曲は鶴崎踊りの『猿丸太夫』です。先生である職員の手を真似して、皆さまで踊ることができました。ご参加いただき、ありがとうございました。（飛髙 七海）

キラリ一等星

光り輝くスタッフのご紹介！

Star No.158

機能訓練指導員

渡名喜（とな き） 樹（いつき）さん［29歳］

さわやか花美館
福岡県北九州市

前職は、整骨院で3年ほど助手を務めていました。機能訓練に興味を持ったのは、リハビリの仕事をしている妻から仕事の内容を聞いたことがきっかけでした。高齢者の方がより長く自分らしい生活をしてもらうための力になれたらと思い、すぐに専門学校で資格を取得した後、さわやか花美館の求人を見つけ、面接を経て入社しました。

働く上で一番大事にしていることは「掃除」です。毎日リハビリの前に掃除をすることで、清潔な環境で入居者様がリハビリに取り組んでいただけるように、いつも心がけています。入居者様によって身体の状況も違うので、どの訓練が適して効果があるか、探って調べて実行する。この一連の作業を繰り返し、その方に合う訓練を見つけることにやりがいを感じています。

今年は施設の夏祭りの企画を担当させていただきました。コロナ禍で外出が難しい入居者様のために、館内でも外に出た気分を味わって楽しんでもらえるイメージを想像しながら準備を行いました。射的や輪投げ、魚釣りなどのゲームをすべて手作りで準備し、景品には昔を懐かしんでいただけるような駄菓子も用意しました。初めての担当で成功できるか不安でしたが、職場の方々の協力もあり、当日は入居者様の笑顔が多く見られました。「楽しかったよ」というお言葉を頂いたことが、とても嬉しかったです。

休日は、2才の娘を連れて散歩や買い物をしています。言葉の覚え始めで、目に入るものを教えると真似しておしゃべりをするので、日々の成長を見ていることが楽しいです。

今後の目標としては、入居者様の身体機能の向上を目指すだけでなく、楽しみながらできる訓練を多く取り入れることで、想い出に残るリハビリをたくさんやっていきたいと思います。

ありがとう

産んでくれて
育ててくれて

私は今から31年前、岐阜県土岐市にて山田家の次男としてこの世に生を受けました。小さい頃は身体が弱く、高熱を出して病院通いをしたり、入退院を繰り返すことが多く、両親に心配ばかりかけていました。小学校6年生の時に高熱が出る原因がわかり手術を受けました。その手術を受けたおかげで中学から体調を崩すことなく、今も健康で生活を送ることができています。

6年前に結婚することが決まり、名古屋に引っ越すことを決断した際、母は「決めたことなら、仕方ない」と背中を押して見送ってくれました。父には自分の気持ちを伝えることができないまま名古屋に来たことが心につかえていましたが、母から「ご飯はちゃんと食べているか、体調を崩さずにやっているのかと聞いてきて心配しています」と父の様子をメッセージで知らせてもらい、改めて父からの気持ちを受けていたと知りました。

実家を離れて名古屋での生活も6年経ち、ようやく慣れてきました。一昨年の10月にはさわやか倶楽部に入社し、初めての土地、初めての環境での仕事、周りに知っている人が少ない状況に不安がありました。しかし、素晴らしい先輩や上司にご指導いただき、一生懸命頑張ることができています。親孝行らしいことは一つもできていませんが、仕事を通じて頑張っている姿を見せられればいいのかなと思います。

これからも、色々とご迷惑をかけると思いますが、温かく見守り、応援してください。お父さん、お母さんの息子として産んでくれてありがとうございます。

さわやかいなざわ館
愛知県稲沢市

山田 浩輔 副施設長

左側の男の子が山田副施設長

戦争の真実と平和への願い

MESSAGE FROM CHAIRMAN

ウチヤマグループ会長
内山 文治

終戦記念日に思うこと

八月十五日に、日本は七六回目の「終戦記念日」を迎えました。この八月という月を、私は毎年特別な思いで過去を振り返りながら過ごしています。

一九四五(昭和二〇)年の八月六日、第二次世界大戦において人類史上初の原子爆弾が広島市に落とされました。その三日後、長崎市に投下された二発目の原子爆弾は、元々は小倉市、現在の北九州市小倉北区の大手町に投下される予定でした。当時、大手町には日本軍の武器を開発・製造・貯蔵する小倉陸軍造兵廠(ぞうへいしょう)があり、敵軍の第一目標でした。

八月九日の朝、小倉市の上空は煙と雲が立ち込めて視界が悪く、目標がはっきりと確認できませんでした。そのため、米軍は第二目標であった長崎市に原爆を投下しました。当時私は四歳で、大手町のすぐ横の弁天町に住んでいました。小倉に原爆が投下されていたら私自身も命を失っていたかもしれません。生きていることは決して当たり前のことではなく、命があることに感謝して人生を大切に生きないといけないと、当時の経験を振り返るたびにその思いを強くします。

戦争では多くの方々が無念の死を遂げています。現在も新型コロナウイルスに感染して命を落としたり、苦しんだりしている方々がたくさんいます。私たちはいつどこで命の危機に遭遇するかわかりません。毎年八月十五日の終戦記念日は、命の大切さ・尊さを考える機会にしてほしいと思います。

戦争は女の顔をしていない

今月の推薦図書の中で「戦争は女の顔をしていない」という本を紹介しています。この本は、一九四一年～一九四五年の第二次世界大戦において、ドイツ軍との戦闘に挑んだソ連軍の従軍女性たちの凄まじい戦争体験をインタビューしたもので、当時の思い出やその後の人生が生々しく描かれています。一部、私が心に残った部分を抜粋してご紹介します。

敵はすぐそばまで来ている。赤ちゃんが泣けば全員が死ぬことになる。三〇人全員が。決断が下された。母親は自分で布切れに包んだ赤ちゃんを水の中に沈めて、長いこと押さえた。赤ちゃんはもう泣かない。静まりかえっている。私たちは誰も眼を上げることも、母親を見ることも互いの顔を合わすことも…できない。

ドイツ将校の食堂でウエートレスに採用された。スープに毒を入れてその日のうちにパルチザンに入れとの命令。私たちは将校に親しんでしまった。そりゃ、敵だけど毎日会うし名前も呼ばれて。これは難しいことよ。殺すのは難しいの。

これらは、本に書かれたことのほんの一部です。彼女たちは自ら志願して前線へ向かいました。家族や国を守るために戦うことは、彼女たちにとって当たり前に生じた感情でした。まだ十六、十七歳の女の子。人が目の前で悲惨な死を迎える、生死を分かつ戦場でさえも「女性らしさ」や「人間性」を忘れることなく持ち続けながら戦いました。

しかし戦争が終わると、男性は英雄として讃えられる一方で、女性は「人殺し」などと呼ばれ偏見の目にさらされます。悲しみを抱えながらも、彼女たちは自分の歩む道をそれぞれに見つけ出し、戦後の時代を生き抜いてきました。戦死した人、戦争に行かなかった人、戦争に行って偏見で差別された人…皆がそれぞれに自分の人生の道を『選択』し、自分の運命と向き合ってきました。

人生においては、良い時もあれば悪い時もあります。その時々にどういう行動をとるかという選択は、私たち一人ひとりが自分自身と向きあいながら決定を下します。いつどんな選択をするかによって、その後の人生が大きく変化することもあります。

今日、新型コロナウイルス感染症により「まさか!」という事態に陥っている人々もいます。私たちにもいつどこで、どんなことが起こるかは分かりません。信念と愛情を持って果敢に「戦争」に挑んだ女性たちの心の声を読み解き、どんな苦境の中でも自分という芯を持ち続けることの大切さを学んでほしいと思います。そして、平和の尊さを改めて胸に刻み、この悲劇を二度と繰り返してはならないという教訓にしてほしいと願っています。

読んでみよう!

今月のオススメ図書は…

1. 戦争は女の顔をしていない (スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ)
2. LIMITLESS (ジム・クウィック)
3. 老いの福袋 あっぱれ!ころばぬ先の知恵88 (樋口 恵子)
4. リボルバー (原田 マハ)
5. お月さんのシャーベット (ペク・ヒナ)

ウチヤマグループ 50周年記念誌

制作スタート！

7月号でお伝えしたとおり、ウチヤマグループの創立50周年を記念して、これまでの会社の歴史を振り返る記念誌の制作がスタートしました。8月3日に制作を担当するメンバーのキックオフミーティングが行われ、「ウチヤマアニバーサリー企画委員会」という名称で活動していくことになりました。8月10日には企画･編集を共同で行っていただく（株）読売広告西部の担当者の方にも本社に来ていただき、今後の進め方などについて打ち合わせが行われました。皆さんの職場でも、記念誌に掲載したいような写真や面白いエピソードがあれば、ぜひお知らせください。

ウチヤマアニバーサリー企画委員会

･ウチヤマHD 経営企画室	嶋井 太郎	･ウチヤマHD 経理部	時　純憲
･ウチヤマHD 経営企画室	岡田 直紀	･ウチヤマHD 人事部	小津和 真徳
･ウチヤマHD 経営企画室	小橋 佳緒里	･ウチヤマHD 人事部	大島 秋穂
･ウチヤマHD 経営企画室	西谷 直子	･さわやか倶楽部 営業部	内田 光星
･ウチヤマHD 総務部	川上 哲緒	･さわやか倶楽部 運営部	村上 公望

ようこそ！青山市長

さわやか室蘭弐番館

7月14日、室蘭市の青山剛市長が「さわやか室蘭弐番館」へご来館されました。お出迎えの際に、入居者様を代表して、橋場ムツ子様（90歳）より花束を贈呈させていただきました。また、野呂源治様（103歳）の直筆によるウェルカムボードのメッセージと、ご本人がそれを読む姿に、青山市長もたいへん感激されたご様子でした。

参加された入居者様、職員とも緊張しつつ、無事に青山市長をお出迎えできた安堵感があり、これからも頑張ろうという意欲に繋がる貴重な時間を過ごさせていただきました。青山市長、この度はご多忙にも関わらずご来館いただき、ありがとうございました。またのお越しをお待ちしております。（さわやか室蘭弐番館･入居者様及びスタッフ一同）

HELLO BABY

飯尾 桜凪（さな）ちゃん

2021年7月9日生まれ

第三子となる長女が誕生しました。喜びと同時に、これまで以上に家族を守っていかなければならないという気持ちで身が引き締まる思いです。コロナ禍で立ち合いができない中、産んでくれた妻に感謝しています。支えていただいた皆様に感謝し、家族で協力して育てていきます。

パパ　さわやかおかざき館　副施設長・飯尾 武志

(株)さわやか倶楽部 今後の開所予定

名　称		定員･ベッド数	開所予定日
1 さわやかこおりやま館	［福島県郡山市］	特定施設（60床）	2021年　9月
2 （仮）さわやか横浜栄館	［神奈川県横浜市］	特定施設（67床）	2022年　3月
3 （仮）さわやかおけがわ館	［埼玉県桶川市］	特定施設（62床）	2022年　8月
4 （仮）さわやか愛知あま館	［愛知県あま市］	特定施設（71床）	2022年　9月
5 （仮）さわやか愛知こうなん館	［愛知県江南市］	特定施設（60床）	2022年　9月

あなたのお悩み話してみませんか？

ひとりで悩まないで！

さわやか相談室

お気軽にどんなことでもご相談ください。
お電話、メールお待ちしております！

電話番号 090-9497-5764

メール sawayakasoudan@docomo.ne.jp